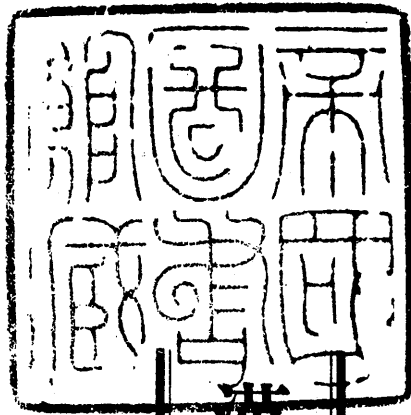


四 漢字字体整理案（国語審議会）

「本案は昭和六年五月臨時国語調査会で発表した常用漢字表（一八五八字）の文字について字体を整理したものである。本案は康熙字典の字体を本として整理したもので、その整理の方針は特別の場合を除く外、慣用を重んじ、簡便を主としたのである。本案に於て整理を施した文字を第一種、第二種に分ける。第一種文字は国定教科書を始め、その他一般に使用するを可とするもの、第二種文字は特別の場合に使用するもの及び普通の場合に使用しても差支ないと認めるものである。」と同案の目的及び方針が凡例に述べられている。

第一種文字は、活字体を筆写体に近づけたもので、一般に広く用いられることを希望し将来の標準字体にしようというもので、現代社会の慣用に最も重きを置いたものとされ、七四三字（乱、属、恋、塩、断、糸、辞、証など）が挙げられている。第二種文字は、第一種に簡易な字体を採った関係上これに対する康熙字典体を採ったものと、いわゆる略字で、第一種とするには時期尚早であると考えられるもの二八九字（亂、屬、戀、仏、独、学、沢、尽、声など）が挙げられている。また、本資料とは別に大正十二年発表の常用漢字表について、その字体を整理したものが、大正十四年十一月に臨時国語調査会の発表した「字体整理案」である。臨時国語調査会は同案を大正十五年七月七日の官報附録雑報に掲載している。

なお、収録に当たって原本（菊判、国立国会図書館蔵本）を拡大（一二二％）した。昭和十三年十一月五日発行（国語協会）。



國語審議會發表

漢字字體整理案



漢字字體整理案

保科孝一

明治四十五年以來の懸案

本年七月廿四日國語審議會の總會で、漢字字體整理案が可決され右整理案の實行について、文部大臣および内閣總理大臣の建議案が提出された。今これについて今日まで漢字字體整理の經過と整理案の内容を簡単に述べて見よう。

文部省における漢字の字體整理は、明治四十五年頃から始まつて居るが、その後しばらく中絶した。しかるに大正五年五月文部省に國語調査の機關が設けられ、各種の問題について調査が進められたが、その中の一がさきに業半で中絶して居た漢字の字體整理であつた。服部(字之吉)博士を委員長に、上田萬年・岡田正之・林泰輔・松井簡治の諸博士を委員とし、漢文科出身の若手數名と私とが加はつて、もつぱらその調査を進め、つひに成案を得て大正八年七月發表されたのが「漢字整理案」である。其整理方針を見るに、「簡便ヲ主トシ、慣用ヲ重ンジ、活字體ト手書體トノ一致ヲ圖ル」といふのであり、さらにこの方針の下に整理を進める目安として「字體ノ簡易ト運筆ノ利便ヲ重ンジ、字形ノ鈞合ヲ整へ、小異ノ合同ヲ圖ル」といふ項目が建てられた。本案の漢字は、尋常小學校用各種教科書における二千六百餘字で康熙字典を本にして整理が進められ、これを以て國民教育上の標準字體とするといふ建前であつたが別に許容字體といふものを設けてゐる。それは古字・略字・俗字等を問はず、標準字體に比して、その字體が一層簡易にして書きやすく、あるひはすでに慣用の久しくかつ廣いものといふ條件で選定されたので、その字數も相當の量に上つて居る。以上の漢字整理案は、將來ひろく國民教育に採用する見込であるが、とにかくこれを世に公にして批評を求めるといふ建前であつたので、國定教科書にはまだ採用されなかつ

た。その後大正十年六月臨時國語調査會を設置し、まづ常用漢字の調査を進めて、同十二年五月常用漢字表一千九百六十字を發表した。しかるに、其常用漢字表中に百五十四字の簡易字體が採用されて居るので、その關係上常用漢字全體にわたつてこれを簡易化し、その統一をはかる必要が痛感された結果、大正十四年十月常用漢字表の字體を整理した「字體整理案」が發表された。その整理方針はさきに發表された「漢字整理案」におけるものとほぼ同様のもので、小學校の國語讀本、すなはち現在のいはゆる舊讀本には、大分採用されたのである。

次に、昭和九年十二月臨時國語調査會が廢止せられ、これに代つて國語審議會が設置された。これは諮問機關であり、各省大臣に建議し得る權能も與へられて、従前の國語調査會に比して、はるかに強化されたのである。それで、翌十年三月松田文部大臣から（一）國語ノ統制ニ關スル件（二）漢字ノ調査ニ關スル件（三）假名遣ノ改定ニ關スル件（四）文體ノ改善ニ關スル件ノ四項にわたる諮問が發せられたので、國語審議會はとりあへず漢字の調査に關する件の中、漢字の字體を整理することが、もつとも時宜を得たものといふことに意見の一致を見たので、九名の主査委員にその調査を託した。爾來主査委員會は二十四回、小委員會數回を重ねて、慎重審議の結果昭和十二年六月成案を得て、これを同年十一月の總會に報告し、さらに本年七月十四日の總會において、これを可決するに至つたのである。

不統一きはまる手書體

現今社會における漢字の慣用を見るに、その字體がすこぶる區々で統一のないことは何人も氣付いて居るところであらう。まづ活字について見ると、これにも種々の字體があつて統一がない。一體活字の字體は康熙字典を基準として居るが、その間社會慣用の字體をも多少混用して居るので、自然その統一を失し、新聞社により、印刷所によつて、所用の活字が異なる場合も生じて、異體の漢字が讀者の眼に觸れるやうになつた。内閣印刷局でも、活字の字體を統一する方針で、目下その整理中であると聞いて居るが、これはひとり印刷局ばかりでなく新聞社や印刷所と協同して行ふべき重要な事業であると

思ふ。それではなければ、活字の字體を完全に統一することが困難であらう。

つぎに、活字體よりもさらに一層統一のないのが手書體である。大正時代の小學國語讀本に「綠」といふ漢字の字體には八通りもあつたことを記憶してゐるが、それと同じやうな例は、手書體の漢字に少くない。單に手書體として慣用されて居るものに、種々の異體があるばかりでなく、さらにこれを活字體と比較すると、一致しないものがすこぶる多いのである。その結果、漢字の字體がいよゝ混亂状態に陥つて、漢字の教育に非常な支障を來して居るのである。現在の新小學讀本は「木」の縦線ははねて居ないが、舊小學讀本では「木」のごとくはねて居る。そこではねる方が正しいか、はねない方が正しいかについて、兄と弟が相争ふことも珍しくない。「者」は日の上に點があるのだが、社會の慣用は大概この點を省いて居る。その點の存在すら氣づかぬ人も多いのであるが、小學兒童が書取の際、木の縦線をはねたり、者の點を忘れたりすると、罰點をつけられる。巳・已・己はみな獨立の文字で、音も意味も異なるのであるが、合體字になると、そのいづれによるべきかに何人も迷ふのである。たとへば「記」は「巳」記「巳」記「巳」といふ區別をあやまらぬやうにすることは、容易の業でない。また月・月・月の區別についても同様で、「朝」は月で月でない、「朗」は月で月でもない、「肥」は月で月でも月でもないといふやうに嚴重にこれを區別して用ゐることは、常人にはすこぶる困難なことであらう。その外字畫の複雑な亂・屬・鹽・廳・攜・獻・獵・藏・豐・邊・鬪・龜等を字典體の通、一點一畫をあやまらぬやうに記憶することは、まったく容易でない。しかるに、我國では康熙字典體を基準として漢字教育を進めて居るから、一點一畫といへども、この基準にそむくことが許されない。もし社會一般が嚴重に康熙字典體をまもつて居るならば格別であるが、實際は一點一畫にさほど深い關心を有たないし、手書體においては、大抵亂・屬・塩・獻・豐・刃・鬪・龜・辭・円・変・点等の簡易な字體を用ゐて居るのである。看板や門標や手紙などに、以上のごとき簡易字體が普通に見受けられるし、しかも世間では別にこれを誤りとは認めて居ない。しかるに、ひとり學校においてのみ、字典體を固守することは、たゞいたづらに漢字學習の負擔を増すのみであるから、これを幾分でも軽減することが刻下の急務と認めて、國語審議會が漢字の字體の簡易化を期するとともに、字體の統

一を圖つたのが「漢字字體整理案」である。

その内容と凡例の二三

漢字字體整理案は以上のごとき理由で成立つたものであるが、その内容について、すこしく説明して見よう。その凡例に

- 一 本案ハ昭和六年五月臨時國語調査會ヲ發表シタ常用漢字表（一八五八字）ノ文字ニツイテ字體ヲ整理シタモノデアアル。
- 二 本案ハ康熙字典ノ字體ヲ本トシテ整理シタモノデ、ソノ整理ノ方針ハ特別ノ場合ヲ除ク外、慣用ヲ重ンジ、簡便ヲ主トシタモノデアアル。

- 三 本案ニ於テ整理ヲ施シタ文字ヲ第一種第二種ニ分ケル。第一種文字ハ國定教科書ヲ始メ、ソノ他一般ニ使用スルヲ可トスルモノ、第二種文字ハ特別ノ場合ニ使用スルモノ、及ビ普通ノ場合ニ使用シテモ差支ナイト認メルモノデアアル。

といふ個條が掲げられてあるが、右の中第一種文字といふのが七四三字、第二種文字といふのが二八九字で、康熙字典そのまゝのもの、つまり別に整理を加へないものが一一一五字といふことになつて居る。

第一種文字は、活字體を手書體に近づけたものといつてよい。これまで、活字體と手書體とがかけはなれて居るために、學習上の困難が少なくなかつた。たとへば、活字體の要・豐・迫・零・齒・龜等は、手書するときは、大抵要・豐・迫・零・齒・龜等の如く書きあらはされるから、整理案はこれを第一種文字として採擇した。また者・暑・都・殺の點を省いたものも同様である。漢字の字體を簡易化して、學習の負擔を軽くすることが整理案の重要な目的であるから、左の如き字體も第一種文字に採擇されて居る。

糸 虫 乱 辞 猷 属 塩 齒 号 証 双 鉄 蚕 断 点 窃 蚕 変 関
又草冠の々は々に、シン入の之は之にすべて改められた。

つぎに、第二種字文には、略字體や行書體のものが多く採擇されてゐる。たとへば、

勞營宝 扣担 炉 沢 独 尽 体 仏 円 刃 処 医 声 弘 画 当
旧 万 解 康 党 礼 湿 核 与

等の如き、その一例である。もつとも第二種文字中に康熙字典體そのまゝのものを入れてある場合もある。それはある特別の場合にその字典體を用ゐる必要があると考へられるからで、亂・囑・斷・獻・繼・辭・龜等がそれである。

第一種文字と第二種文字に分けたのは、整理案としてはすこしく生ぬるゝ、第二種文字中に採擇してある略字體のものはすでに世間でひろく慣用して居るのであるから、これを第一種文字に繰入れて然るべきであるといふ強硬な意見もあつたが急激な變化を避けて、おもむろに進む方が賢明であるとの意見が多數を制して、本案のやうに決定を見るに至つたのである。昨年十一月の總會に本案が報告されたとき、總會はこれを社會に發表して批評を聞き、その取るべきものは取り、改めるべきものは改めることにしようといふので、その後約半年の間世評を聞き、七月の總會でいよいよこれを可決したのである。

切望して止まぬ本案の實行

以上に述べた通り、漢字字體整理案は現今漢字の字體が社會の慣用すこぶる區々にして統一がないので、社會上および教育上少からぬ不便があるから、この不便を除き去るため、活字體と手書體の調和をはかり、其基準を定めて學び易く用ひ易くし、漢字に對する負擔を大に輕減しようとしたものである。ゆゑに、活字體と手書體の調和をはかるにも、社會の慣用に、もつとも重きを置き、なるべく字體の簡易化につとめたのであるから、もしこの案が教育上のみならず、ひろく公用文書や社會一般の生活に慣用せられるやうになれば、その能率が従前に比して、幾倍の向上を見るであらうし、また漢字のなやみも、之によつて大に救はれるであらうことは、言をまたない。

此案は文部大臣の諮問に答へたのであるから、この答申の實行に對して、文部大臣はかならずや善處せられるであらうと信するが、國語審議會は本案の實行を切に希望するあまり、文部大臣および内閣總理大臣にその希望を建議したのである。

内閣總理大臣に提出した建議は、ほゞ左のごとき内容のものである。

昭和十年三月廿五日、文部大臣より本會に諮問せられました事項、(一)國語の統制に関する件、(二)漢字の調査に関する件、(三)假名遣の改定に関する件、(四)文體の改善に関する件の中、先づ漢字の字體にして關して慎重審議の結果、漢字字體整理案を答申致しました。

現在漢字使用の實情に鑑みまして、その字體を整理することが最も必要と認めますから、速に右整理案を教育の實際に應用するとともに、これを廣く各官廳の公用文書に採用する等、その趣旨の徹底について、適當の御取計を希望致します。といふので、内閣においても、十分に考慮せられるであらうと信ずる。

現今わが國民教育における漢字教育は、すこしく嚴正に過ぎる傾がある。書取の考査において、一點一畫の微といへども康熙字典體や國語讀本所掲の字體にそむくことが許されない。もちろん、一點一畫がその生命になつてゐる文字もあるが、社會の慣用から顧みられない様になつて居るものまで、嚴重に考査することはどうかと思ふ。たとへば、者・暑・都等における日の上の點は、社會の慣用からほとんど忘れられて居るものであるのに、この點を忘れたからといつて、罰點を附することは、すこしく酷ではなからうか。朝を「朝」と書き、記を「記」と書くと同様で、これらをすこしく緩和することが、今日の國民教育上もつとも必要であると信ずる。社會にひろく慣用されて居るものを無視して、ひたすら康熙字典體か國語讀本體に據らしめ、一點一畫の微といへども、寛容しない現在の漢字教育は、すこしく行き過ぎて居る感がある。

小學兒童が書取の爲に、いかに苦しむか、これが爲に、かれらの精神的に、はた生理的に蒙る痛手は、神經衰弱や近視眼となつてあらはれて居るので、これはおそらく早晚教育審議會の重要な議題となるのであらうが、國語審議會としても黙過するに忍びない問題であるから、同會の總意として、これに對する善處方を南會長から荒木文部大臣にしたしく要望されたのである。これは文部省としても眞剣に考慮されて然るべき重要な問題であると思ふ。(東京朝日新聞から)

凡 例

- 一、本案ハ昭和六年五月臨時國語調査會デ發表シタ常用漢字表(一八五八字)ノ文字ニツイテ字體ヲ整理シタモノデアアル。
- 二、本案ハ康熙字典ノ字體ヲ本トシテ整理シタモノデ、ソノ整理ノ方針ハ特別ノ場合ヲ除ク外、慣用ヲ重ンジ、簡便ヲ主トシタノデアアル。
- 三、本案ニ於テ整理ヲ施シタ文字ヲ第一種、第二種ニ分ケル。第一種文字ハ國定教科書ヲ始メ、ソノ他一般ニ使用スルヲ可トスルモノ、第二種文字ハ特別ノ場合ニ使用スルモノ及ビ普通ノ場合ニ使用シテモ差支ナイト認メルモノデアアル。
- 四、本案ノ整理上ノ主要ナ項目ヲ舉ゲレバ次ノ通。

注意 例示シタ文字中、印ノ無イモノハ第一種文字、○印ヲ付シタモノハ第二種文字。

(一) 線ヲ伸シタモノ

例 角 角
画。画
号 号
革 革

二) 線ヲ縮メタモノ

例 周 周 告 告 構 構 巨 巨

(三) 畫ノ數ヲ増シタモノ

例 片 片 今 今 策 策 馱 馱

(四) 畫ノ數ヲ減シタモノ

例 黃 黃 成 成 近 近 者 者

(五) 運筆ヲ變ヘタモノ

例 半 半 骨 骨 系 系 雨 雨

(六) 組立ヲ變ヘタモノ

(七)

小異ヲ統一シタモノ

例 默 默

護 護

勳 勳

點 點

(八)

二體以上ノ一體マタハ二體ヲ採ツタモノ

例 朝 朝

肥 肥

青 青

西 西

覆 覆

(九)

簡易ナ字體ヲ採ツタモノ

例 群 群 羣

間 間 間

島 嶋 島 嶋 島

例

糸 絲

虫 蟲

声 聲

隨 隨

心 應

聽 聽

觀 觀

馱 驛

勞 勞

五本案ニオケル文字ノ排列ハ康熙字典ノ順序ニヨル。但シ整理ノ結果部首ノ形又ハ

部屬ノ變ツタモノハ適宜コレヲ排列シタ。

(一) 部首ノ形ノ變ツタモノ

玉 玄 牙 片 爻 夂 尸	新
玉 玄 牙 片 爻 支 尸	旧
角 西 𠂔 舟 耒 羽 瓦	新
角 西 ^ナ 𠂔 _(艸) 舟 耒 羽 瓦	旧
黄 麻 骨 革 青 雨 之	新
黄 麻 骨 革 青 雨 之 _(是)	旧
龜 龍 齒 鼻 鼓 黑	新
龜 龍 齒 鼻 鼓 黑	旧

(二) 部屬ノ變ツタモノ

整理字体 (ツ部首)	字典体 (ソノ部首)	整理字体 (ツ部首)	字典体 (ソノ部首)
内 (内)	内 (入)	塩 (土)	鹽 (鹵)
全 (人)	全 (入)	点 (火)	點 (黑)
両 (一)	兩 (入)		

六、本案ノ大字ハ整理字体、小字ハ字典體ヲ示ス。但シ字典ニナイ文字ニハ×印ヲ付シタ。

七、本案ノ整理字体中、印ノ無イモノハ第一種文字、○印ヲ付シタモノハ第二種文字ヲ示ス。

尙常用漢字表中、字典體ソノマ、ヲ採用スル文字ハコレヲ別ニ掲ゲタ。

第一種文字
第二種文字

八部	儿部		人部	亼部	丁部	乙部	丿部	丶部	一部	
具	充	僅	俊	佛	今	亡	事	乳	乘	丙
具	充	僅	俊	仏	今	亡	事	乳	乘	丙
兼	兌	像	修	仏	他	京	亂	亂	兩	兩
	免	偽	俱	來	令	亭	亂	亂	並	並
	兒	僧	併	悔	伊	亭	亂	亂	並	並
		僧	併	悔	伊					
		候	候	全	全					
		候	候	全	全					
		儉	假	侵	伴					
		儉	假	侵	伴					
		偏	便	余	余					
		偏	便	余	余					
		停	係	余	余					
		停	係	余	余					

厂部	冂部	十部	匚部	匕部	力部	刀部	冫部	宀部	冂部		
厄	危	半	匚	北	勞	効	前	双	冬	冗	内
厄	危	半	匚	北	勞	効	前	双	冬	冗	内
厄	危	卑			募	刺	刑	冷		册	
		卑			募	刺	刑	冷		册	
却	却	博			勢	割	判	准			
却	却	博			勢	割	判	准			
卷	卷	博			勢	劍	別	凌			
卷	卷	博			勢	劍	別	凌			
即	即				勤	劔	券				
即	即				勤	劔	券				
					勲	劔	刺				
					勲	劔	刺				
					勵	劔	刺				
					勵	劔	刺				
					務	劔	刺				
					務	劔	刺				
					勝	劔	刺				
					勝	劔	刺				
					勤	劔	刺				
					勤	劔	刺				

人部

又部

口部

口部

土部

士部

夕部

參

雙
雙雙

號
號號

員
員員

喜
喜喜

回
回回

圖
圖圖

坂
坂阪

塔
塔塔

墮
墮墮

壯
壯壯

夢
夢夢

收
收收

君
君君

唐
唐唐

單
單單

器
器器

因
因因

坪
坪坪

墓
墓墓

壞
壞壞

叙
叙叙

告
告告

啓
啓啓

噴
噴噴

國
國國

垂
垂垂

城
城城

增
增增

壤
壤壤

周
周周

善
善善

嚴
嚴嚴

困
困困

報
報報

城
城城

增
增增

壤
壤壤

品
品品

喉
喉喉

囑
囑囑

圓
圓圓

場
場場

墨
墨墨

場
場場

墨
墨墨

山部	尸部	小部	寸部	宀部	子部	女部	大部
島	岡	尺	將	寢	孫	婦	天
嶋	岡岡	尺	將將	寢寢	孫孫	婦婦	天
島	岩	尼	寢寢	宜宜	學	姪	奇
嶋	巖	尼	寢寢	宜宜	學	姪姪	奇
崎	巖巖	尾	尊	害	學	嫌	契
崎	巖巖	尾	尊尊	害害	學	嫌嫌	契契
	岳	尿	尋	宿	孀	孀	奔
	嶽	尿	尋尋	宿宿	孀孀	孀孀	奔奔
	嶽	局	對	寄	姬	姬	奢
	嶽	局	對對	寄寄	姬姬	姬姬	奢奢
	峰	居	導	富	姿	姿	奧
	峯	居	導導	富富	姿姿	姿姿	奧奧
	屬	屈		富富	娛	娛	獎
	屬	屈		富富	娛娛	娛娛	獎獎
	屈	屈		寒	婚	婚	獎
	屈	屈		寒寒	婚婚	婚婚	獎獎

心部	忄部	多部	弓部	卅部	爿部	广部	幺部	干部	巾部	工部	川部
忌	役	彩	弱	弊	延	床	幾	平	席	巨	巡
忌	役	彩	弱弱	弊	延	床牀	幾	平	席	巨	巡
忘	徑	彫	強		廻	度			帶	差	巢
忘	徑	彫	強		廻	度			帶	差	巢
忙	從		強		廻	廉			帽		
忙	從		強		廻	廉			帽		
急	御		彈			廊			幕		
急	御		彈			廊			幕		
急	徵					廢			幣		
急	徵					廢			幣		
怨	徹					廢					
怨	徹					廢					
恐						廣					
恐						廣					
						廳					
						廳					

攴部

手部 戶部 戈部

攴 攝。撮。描。指。投。所。成。懲。慕。惰。恥。
攴 攝 撮 描 指 投 所 成 懲 慕 惰 恥

教 擊。搯。搯。指。抱。扇。戰。懷。慘。惱。
教 擊 搯 搯 指 抱 扇 戰 懷 慘 惱

敏 操。揭。捨。扞。戲。懸。慨。恭。
敏 操 揭 捨 扞 戲 懸 慨 恭

散 擔。援。掃。拍。慶。愉。悔。
散 擔 援 掃 拍 慶 愉 悔

敬 扱。搖。掛。拒。戀。憚。感。情。
敬 扱 搖 掛 拒 戀 憚 感 情

數 擧。携。採。拔。憲。慎。惑。
數 擧 携 採 拔 憲 慎 惑

數 擧。擧。探。拳。憤。憾。惠。
數 擧 擧 探 拳 憤 憾 惠

整 擴。摩。控。扣。忖。態。惡。
整 擴 摩 控 扣 忖 態 惡

欠部

木部

月部

日部

日部

无部

斤部

斗部

次
次

權
權
權

樞
樞

棋
棋
碁

松
松
松

有
有

更
更
更

曆
曆

音
音

既
既
既

斷
斷
斷

斜
斜

欸
欸
欸

橫
橫

植
植
植

柿
柿
柿

服
服

書
書

曇
曇

明
明
明

斷
斷
斷

樣
樣

極
極

某
某

朗
朗

曾
曾
曾

曜
曜

晚
晚

歎
歎

橋
橋

榮
榮

查
查

望
望

會
會

昼
晝

歐
歐

機
機

構
構

校
校

朝
朝

晴
晴

歡
歡
歡

橫
橫

概
概
槩

桑
桑

暖
暖

檢
檢

樂
樂

梅
梅

暑
暑

欄
欄

樓
樓
樓

條
條
條

暮
暮

水部 气部 氏部 母部 夂部 歹部 止部

漏	湧	淵	消	沿	水	气	民	每	段	殖	歲
<small>漏</small>	<small>湧</small>	<small>淵</small>	<small>消</small>	<small>沿</small>	<small>水</small>	<small>氣</small>	<small>民</small>	<small>每</small>	<small>段</small>	<small>殖</small>	<small>歲</small>
漢	準	清	涼	況	永				殺	歷	
<small>漢</small>	<small>準</small>	<small>清</small>	<small>涼</small>	<small>況</small>	<small>永</small>				<small>殺</small>	<small>歷</small>	
漢	溢	淺			污				殿	殘	歸
<small>漢</small>	<small>溢</small>	<small>淺</small>			<small>污</small>				<small>殿</small>	<small>殘</small>	<small>歸</small>
潔	溺	減	淚	流	決				毀		歸
<small>潔</small>	<small>溺</small>	<small>減</small>	<small>淚</small>	<small>流</small>	<small>決</small>				<small>毀</small>		<small>歸</small>
潛	滑		淨	浮							飯
<small>潛</small>	<small>滑</small>		<small>淨</small>	<small>浮</small>							<small>飯</small>
潮	滯	渡		浴	汽						
<small>潮</small>	<small>滯</small>	<small>渡</small>		<small>浴</small>	<small>汽</small>						
沃	滿	溫	淫	海	沈						
<small>沃</small>	<small>滿</small>	<small>溫</small>	<small>淫</small>	<small>海</small>	<small>沈</small>						
	漆	渴	深	浸	沒						
	<small>漆</small>	<small>渴</small>	<small>深</small>	<small>浸</small>	<small>沒</small>						

瓦部	玉部	玄部	犬部	牛部	牙部	片部	爪部	火部	
瓦	玉	玄	獸	犛	牙	片	爭	灰	濕
瓦	玉	玄	獸	犛	牙	片	爭	灰	濕
瓶	珍	率	獻	狀	版	版	熱	災	濕
瓶	珍	率	獻	狀	版	版	熱	災	濕
	琴		貓	貓	牌	為	燈	炭	濟
	琴		貓	貓	牌	為	燈	炭	濟
	環		猶	猶		為	燒	點	灑
	環		猶	猶		為	燒	點	灑
			獨	獨		爵	營	然	灣
			獨	獨		爵	營	然	灣
			獲	獲			爐	煉	
			獲	獲			爐	煉	
			獵	獵			爐	煮	
			獵	獵			爐	煮	
								煙	
								煙	

禾部 示部 石部 目部 皿部 火部 疒部 田部 生部

穀 穀 穀	稅 稅 程	禍 禍 福	示 示 社	砲 砲 研	盲 盲 直	益 益 盛	發 發 發	疫 疫 疊	當 當 疊	畏 畏 畜	產 產 畜
穩 穩	稱 稱 稱	禦 禦 禮	祈 祈 秘	碑 碑 確	真 真 真	盜 盜 盡			疊	畝 畝	
	稻 稻 稻	禮 禮 禮	秘 秘 秘	磨 磨 磨	着 着 着	盡 盡 盡				畫 畫 畫	
		祖 祖 祖				盤 盤 盤				異 異 異	
	稿 稿 稿		祝 祝 祝							留 留 留	
			神 神 神								

羊部 网部 缶部

糸部 米部

竹部 立部 穴部

群 置 欠 缺 群 置 置 群 羣

纜 纜 縣 縣 綠 綠 系 系 精 精 簡 簡 答 答 競 競 究 究
繼 縫 網 紀 糖 糖 簿 簿 策 策 算 算 算 算
繼 繼 縱 縱 納 納 縱 縱 納 納

精 精 簡 簡 答 答 競 競 究 究
糖 糖 簿 簿 策 策 算 算 算 算
空 空 突 突 突 突 室 室 室 室

署 署 罷 罷

續 總 繁 繁 緣 緣 絕 絕
總 總 繁 繁 緣 緣 絕 絕
終 終 終 終 終 終 終 終

算 算 算 算

突 突 突 突 室 室 室 室

節 節

窓 窓 窓 窓 窓 窓 窓 窓

範 範 範 範

縵 縵 縵 縵 縵 縵 縵 縵

築 築

窮 窮 窮 窮 窮 窮 窮 窮

繪 練 絹 繪 練 絹 繪 練 絹

繭 縛 經 繭 縛 經 繭 縛 經

築 築 築 築

自部 臣部

肉部 聿部 耳部 耒部 老部 羽部

臭臭 臨臨 臆臆 腸腸腸 脈脈脈 背背 肖肖 肅肅肅 聖聖 耕耕 考考考 羽羽

臟臟臟 膚膚 脊脊 胎胎 肝肝 肅肅 聯聯 者者 翁翁

腹腹 脚脚 胞胞 股股 聲聲 聲聲 翬翬

膜膜 脫脫 胛胛 肥肥 習習

膝膝膝 腕腕腕 胸胸 肩肩 聽聽 翼翼

膺膺 腦腦 能能 育育

膽膽 肱肱 肱肱 肺肺

腰腰 胃胃

虫部	危部				艸部	舟部	舌部	臼部	至部		
融	處	藥	蒸	萬	莊	若	芝	舟	舍	與	致
融	處	藥	蒸	萬	莊	若	芝	舟	舍	與	致
融	處	藥	蓄	萬	莊	若	花	航	舍	與	致
融	虛	藥	蓄	萬	莊	若	花	航	舍	與	致
融	虛	藥	蓄	萬	莊	若	花	航	舍	與	致
虫		蔓	落	菊	英	芽	般			舊	臺
虫		蔓	落	菊	英	芽	般			舊	臺
蚕		薄	葉	菌	茂	芳	舵				
蚕		薄	葉	菌	茂	芳	舵				
蚕		藏	著	菓	茶	苑	舶				
蚕		藏	著	菓	茶	苑	舶				
蚕		藏	葬	菜	草	苑	船				
蚕		藏	葬	菜	草	苑	船				
蚕		藝	華	荒	苗	艦	艦				
蚕		藝	華	荒	苗	艦	艦				
蚕		藤	蒙	荷							
蚕		藤	蒙	荷							

豕部	豕部		言部	角部	見部	西部	衣部	行部	血部
豕	豕	讀	調	記	視	西	術	衆	
豕	豕	讀	調	記	視	西	術	衆	
		謹	請	設	解	覓	裝	衛	
		謹	請	設	解	覓	裝	衛	
豕	變	証	論	評	覽	覆	袞	衛	
豕	變	証	論	評	覽	覆	袞	衛	
豕	變	譜	諸	詠	觸	覽	袞	衛	
豕	變	譜	諸	詠	觸	覽	袞	衛	
	讓	警	諾	誇	觀		龍		
	讓	警	諾	誇	觀		龍		
	訖	謁	誠		觀				
	訖	謁	誠		觀				
	護	講	誤						
	護	講	誤						
	譽	謠	說						
	譽	謠	說						
	譽								

貝部

走部

足部

車部

辛部

辵部

負負貳貳賄賄資資賓賤賤賴賴購購

贈贈贊贊贊贊

越越

距距躍躍

軌軌軟軟較較輕輕輸輸

辨弁辨辨辭辭辭辭

込込迎迎近近返返迫迫迭迭迷迷

追追退退送送逃逃逆逆透透逐逐途途

通通速速造造連連週週進進逸逸遂遂

遇遇遊遊運運過過道道達達遠遠

遙遙遮遮遞遞遠遠遣遣適適遭遭

還還還還遵遵遷遷選選遺遺避避還還

雨部 隹部

阜部 門部

金部 米部 酉部 邑部

震	雨	雅	隙	陰	間	鐵	釜	糶	配	邾	邊
震	雨	雅	隙	陰	間	鐵	釜	釋	配	邾	邊
霜	雪	雇	隙	陵	閱	鈴	鈴		酷	邪	邊
霜	雪	雇	隙	陵	閱	鈴	鈴		酷	邪	
霧	雲	雜	隨	陷	關	鑄	銳		酸	郎	
霧	雲	雜	隨	陷	關	鑄	銳		酸	郎	
露	雲	雜	隨	陷	關	鑑	錄		醫	郡	
露	雲	雜	隨	陷	關	鑑	錄		醫	郡	
靈	零	難	險	陸		錢	錢			郵	
靈	零	難	險	陸		錢	錢			郵	
靈	雷		隱	隆		鑛	鍋			都	
靈	雷		隱	隆		鑛	鍋			都	
	電			隊			鎖			鄉	
	電			隊			鎖			鄉	
	需			隔			鎮				
	需			隔			鎮				
				隔			鎮				

鬼部	鬥部	髟部	高部	骨部	馬部		食部	頁部	音部	革部	青部
魂	鬪	髟	高	骨	馱	館	飢	領	響	革	青
魂	鬪	髮	高	骨	馱	館	飢	領	響	革	青
魂	鬪	髮	高	髓	騎	館	飢	顏	響	靴	靜
魂	鬪	髮	高	髓	騎	館	飲	顏		靴	靜
魂	鬪	髮	高	體	騰		飯	顛			靜
魂	鬪	髮	高	體	騰		飯	顛			靜
魂	鬪	髮	高	體	驅		飾	顛			靜
魂	鬪	髮	高	體	驅		飾	顛			靜
魂	鬪	髮	高	體	驅		養	類			靜
魂	鬪	髮	高	體	驅		養	類			靜
魂	鬪	髮	高	驗	驗		餓	顧			靜
魂	鬪	髮	高	驗	驗		餓	顧			靜
魂	鬪	髮	高	驚	驚		餅	顯			靜
魂	鬪	髮	高	驚	驚		餅	顯			靜
魂	鬪	髮	高	駟	駟		餅	顯			靜
魂	鬪	髮	高	駟	駟		餅	顯			靜

龜部	龍部	齒部	齋部	鼻部	鼓部	黑部	黃部	麻部	麥部	鹿部	鳥部	魚部
龜	龍	齒	齋	鼻	鼓	黑	黃	麻	麥	鹿	鶴	鯛
龜	龍	齒	齋	鼻	鼓	黑	黃	麻	麥	鹿	鶴	鯛
	龍	齡			鼓	默			麥	麗	鷄	
	龍	齡			鼓	默				麗	鷄	
						默					鷄	
						默					鷄	

黨党。黨

漢字字體整理案ノ説明

一、字典体ノ漢字ト今日我等ノ慣用スル漢字トノ間ニハ字形ノ相違シテキルモノガ少クナイ。今此等ヲ點檢スルニ、或者ハ文字部首ノ變化シタノガ基本ニナリ、或者ハ文字ノ一部ノ變化シタノガ基本ニナツテ居ル。例ヘバ

〔周 周〕

彫 彫 調 調 鯛 鯛

〔成 成〕

城 城 誠 誠 盛 盛

等ハ〔周〕〔成〕

トイフ文字ノ變化シタノガ基本ニナツタモノデアリ

〔近 近〕

近 近 追 追 通 通

〔争 争〕

争 争 爲 爲 爵 爵

等ハ〔近〕〔争〕

トイフ部首ノ變化シタノガ基本ニナツタモノデアリ

〔良 良 良〕

既 既 郷 郷 節 節

ハ〔良〕

トイフ部首ニアラザル文字ノ一部ノ變化シタノガ基本ニナツタモノデアアル。マタ

〔革 革〕

靴 靴

〔董 董〕

僅 僅 謹 謹 勤 勤

〔莫 莧〕

歎 歎

難 難

漢 漢

等ハソレゾレ「革」「莧」トイフ文字、「莫」トイフ文字ノ一部ノ變化シタ
ノガ基本ニナツテ居ルケレドモ、更ニ詮索スレバ、何レモ「艹」トイフ文字ノ
一部ノ變化シタノガ基本ニナツテ居ルコトガ知ラレル。「度」「席」等モ
亦之ニ屬スル。本案ハ斯ル基本ニナツテ居ルモノヲ求メ、凡例二ノ方針ニ基
イテ整理統一ヲ行ツタ。凡例四ノ(一)乃至(五)ハ之ヲ其ノ變化シタ點ニ就テ類
別シタノデアアル。

二、漢字ヲ其ノ結構ニ就テ見ルニ、間々扁旁ヤ冠脚ノ鈞合ノ取レナイモノヤ、組立
ノ窮屈ナモノナドガアル。斯ルモノハ、時ニ其ノ布置ヲ變ヘタモノガアル。
凡例四ノ(六)ハ之ヲ謂フノデアアル。

三、漢字ノ中ニハ字形ガ互ニ類似シテ居テ、一點一畫ノ極メテ微細ナ差異ニ依テ
分レルモノガアル。此等ノモノデ、一般ノ慣用ニモ反セズ、其ノ何レニ併合シ
テモ別ニ誤解ヲ生ジナイモノハ、學習上ノ便益ヲ考ヘテ、之ヲ其ノ一ニ併合シ
タ。凡例四ノ(七)ハ之ヲ謂フノデアアル。

四、漢字ノ中ニハ「場」「場」、「賓」「賓」、「勅」「勅」、「画」「畫」、「畫」、「畫」、「携」「攜」「攜」「携」等ノヤウニ、同字デ數体アルモノガ少クナイ。マタ單獨体ガ「兼」デ複合体ガ「嫌」「廉」等ノ「兼」デアル場合モアル。此ノ如キハタダニ煩冗ニ失スルノミナラズ、マタ人ヲシテ其ノ據ルトコロヲ知ルニ苦シマシメモスルノデ、其ノ中ノ一（稀ニ二）ヲ採擇スルコトニシタ。凡例四ノ(八)ハ之ヲ謂フノデアアル。

五、字畫ノ複雑ナモノヲ成ルベク簡易ニスル必要ノアルコトハ言フマデモナイ。隨ツテ繁簡兩体ヲ存スルモノハ、事情ノ許ス限り勉メテ簡單ナモノニ從ツタ。之ニ「糸^絲」「虫^蟲」ノヤウニ、一部デ全部ヲ代表サセタモノモアリ、「聽^聽」「隱^隱」ノヤウニ、一部ヲ省イタモノモアリ、「乱^亂」「齒^齒」ノヤウニ、別体ヲ採ツタモノモアル。別体ヲ採ツタモノノ中ニハ、前ニ述べタモノノ如ク、文字部首マタハ文字ノ一部ノ簡易化シタノガ基本ニナルコトガ多イ。凡例四ノ(九)ハ之ヲ謂フノデアアル。

六、字典体ノ漢字ニハ「木」「米」ノヤウニ、中央ニアル縦線及「門」「鬪」ノヤ

ウニ、右側ニアル縦線ヲ筆ヲ押ヘタママニシタノガアル。然ルニ「水」「寸」
 「竹」ナドハ縦線ヲハネテアルノミナラズ慣用上カラ見レバ之ヲハネルコ
 トが多い。マタ「𠂔」「𠂕」「𠂖」ノ如キ部首ノ「𠂗」ヲ「𠂘」ノ如ク書キ「言」
 「音」「帝」ノ如キ漢字ノ上部ノ線畫ヲ點畫トシテ書クコトモ亦多い。此等
 ハ其ノ何レニ從ツテモ可イヤウニ認メルガ、餘リニ細部ニ亘ルノ嫌ガアルタ
 メニ、本案ノ整理ニハ之ヲ加ヘナカツタ。次ニ「父」「入」「及」等ノ「人」線
 ノ起筆ノ鉤畫ハ之ヲ省キ「衣」「氏」「眼」等ノ「レ」及「公」「至」「糸」等
 ノ「厶」ノ如ク、二畫ノ形ナルニ係ラズ、字典ニ於テ一畫ニ數ヘタモノハ、筆ヲ
 改メナイノガ普通デアアル。併シ此等モ同ジ事由ニ因リ、本案ノ整理カラ除
 外シタ。

七、一乃至六ノ漢字ノ變化ハ同字中數箇所ニ起ルコトガアル。例ヘバ「角角」
 「勝^勝」「輸^輸」等ハソレゾレ二箇所マタハ三箇所ニ於テ變化ヲ起シテ居
 ルノデアアル。

以上ハ大体整理上ノ要項ニ就テ説明シタノデアアルガ、尙其ノ内容ヲ明ラカ

ナラシメムガタメ、其ノ細目ヲ列擧スレバ次ノ通りデアル。

注意 例示シタ文字中、印ノ無イモノハ第一種文字、○印ヲ付シタモノハ第二種文字。

一、 縦ノ線ヲ伸シタモノ

○(一)「亭」「豪」「高」等ノ「亨」ヲ「亨」ニシタモノ。

之ト類似ノ字形ニ「隔」ノヤウナモノガアル。

○(二)「回」ヲ「回」ニシタモノ。例 回 廻 壇

(三)「角」ヲ「角」ニシタモノ。例 角 解 觸

(四)「己」ヲ「巳」ニシタモノ。例 記 紀 但シ「己」ノ單獨体ハモトノマ、。

(五)其ノ他ノモノ。画 画 号 号 號 號 誇 誇 鼻 鼻

二、 縦ノ線ヲ縮メタモノ。

(一)「周」ヲ「周」ニシタモノ。例 周 調 彫

(二)「告」ヲ「告」ニシタモノ。例 告 酷

(三)「唐」ヲ「唐」ニシタモノ。例 唐 糖

(四)「博」「縛」「敷」等ノ「甫」ヲ「甫」ニシタモノ。

⑤「勇」ヲ「勇」ニシタモノ。〔例〕勇湧

⑥其ノ他ノモノ。北北書書

三、横ノ線ヲ伸シタモノ。

①「革」革「董」董「歎」歎「度」度等ノ「廿」ヲ「廿」ニシタモノ。

〔例〕革靴僅勤歎漢度渡

②「別」ヲ「別」ニシタモノ。之ト類似ノ字形ニ「万」万ノヤウナモノガアル。

③其ノ他ノモノ。某某冊冊与与

四、横ノ線ヲ縮メタモノ。

○①「婦」婦「尋」尋「急」急等ノ「ヨ」ヲ「ヨ」ニシタモノ。

②「構」構「講」講等ノ「冫」ヲ「冫」ニシタモノ。

③「巨」巨ママタタハ「巨」ヲ「巨」ニシタモノ。〔例〕巨距拒

五、畫ノ數ヲ増シタモノ。

①「片」ヲ「片」ニシタモノ。〔例〕片版牌

○②「旨」ヲ「旨」ニシタモノ。〔例〕旨指

(三)「今」ヲ「今」ニシタモノ。〔例〕今吟琴

(四)「牙」ヲ「牙」ニシタモノ。〔例〕牙邪

(五)「刺」「策」等ノ「束」ヲ「束」ニシタモノ。

○(六)「卷」「危」「範」等ノ「巳」ヲ「巳」ニシタモノ。

(七)「報」「服」等ノ「良」ヲ「良」ニシタモノ。

(八)「免」「免」ヲ「免」ニシタモノ。〔例〕免勉晚

(九)「確」「鶴」等ノ「雀」ヲ「雀」ニシタモノ。

(十)「卑」ヲ「卑」ニシタモノ。〔例〕卑碑

○(二)「奇」ヲ「奇」ニシタモノ。〔例〕奇寄崎騎

(三)其ノ他ノモノ。延延駭駭

六 畫ノ數ヲ減ジタモノ。

(一)「艹」ヲ「艹」ニシタモノ。〔例〕花芳墓猫

(二)「辶」ヲ「辶」ニシタモノ。〔例〕近速導

(三)「者」ヲ「者」ニシタモノ。〔例〕者煮諸都

(四)「宜」宜「臭」臭「殺」殺「寬」寬等ノヤウニ其ノ他總ベテ「、」ヲ省イタモノ。

(五)「董」ヲ「董」ニシタモノ。〔例〕僅勤

(六)「黃」ヲ「黃」ニシタモノ。〔例〕黃廣橫

○(七)「具」具「隆」隆等ノヤウニ其ノ他總ベテ橫線ヲ省イタモノ。

(八)「曆」「歷」等ノ「秝」ヲ「林」ニシタモノ。

(九)「成」ヲ「成」ニシタモノ。〔例〕成誠盛

(一〇)「差」「着」等ノ「𠂔」ヲ「𠂔」ニシタモノ。

(一一)「修」「務」「變」等ノ「攴」ヲ「攴」ニシタモノ。

(一二)「采」ヲ「采」ニシタモノ。〔例〕菜彩採

(一三)「會」ヲ「會」ニシタモノ。〔例〕會繪

(一四)「曾」ヲ「曾」ニシタモノ。〔例〕曾僧增

(一五)「黑」ヲ「黑」ニシタモノ。〔例〕黑墨默

之ニ類似シタ字形ニ「勳」勳ノヤウナモノガアル。

(一六)「東」ヲ「東」ニシタモノ。〔例〕煉練欄

(一七)「舟」ヲ「舟」ニシタモノ。〔例〕舟航盤

(一八)「母」ヲ「母」ニシタモノ。〔例〕每梅繁

但シ「母」ノ單獨体ハモトノマ、。

○「冂」ヲ「ネ」ニシタモノ。〔例〕社。祈。福。

○「奔」ヲ「噴」等ノ「卉」ヲ「卉」ニシタモノ。

之ニ類似シタ字形ニ「異異」ノヤウナモノガアル。

○其ノ他ノモノ。「奥奥」

七、運筆ヲ變ヘタモノ。

(一)「半」ヲ「半」ニシタモノ。〔例〕半伴判

(二)「平」ヲ「平」ニシタモノ。〔例〕平坪評

(三)「券」ヲ「卷」ヲ「拳」等ノ「尖」ヲ「尖」ニシタモノ。

(四)「幣」ヲ「尙」ヲ「鎖」等ノ「小」ヲ「小」ニシタモノ。

(五)「援」ヲ「乳」ヲ「爵」等ノ「爪」ヲ「爪」ニシタモノ。

(六)「究」ヲ「突」ヲ「深」等ノ「几」ヲ「几」ニシタモノ。

(七)「兌」ヲ「悅」ヲ「兼」ヲ「尊」等ノ「八」ヲ「八」ニシタモノ。

(八)「戸」ヲ「戶」ニシタモノ。〔例〕雇偏啓肩。焗。

(九)「系」ヲ「系」ニシタモノ。〔例〕系係孫

○(㉟)「舍」ヲ「舍」ニシタモノ。〔例〕舍捨。

(㊱)「橋」等ノ「夭」ヲ「天」ニシタモノ。

(㊲)「呈」「程」等ノ「壬」ヲ「王」ニシタモノ。

(㊳)「害」「憲」「契」等ノ「丰」「丰」ヲ「主」ニシタモノ。

(㊴)「耒」ヲ「耒」ニシタモノ、〔例〕耕

(㊵)「善」ヲ「善」ニシタモノ。〔例〕善繕

之ニ類似シタ字形ニ「喜喜」ノヤウナモノガアル。

(㊶)「冬」「終」「寒」等ノ「辵」ヲ「辵」ニシタモノ。

(㊷)「次」ヲ「次」ニシタモノ。〔例〕次姿資

(㊸)「雨」ヲ「雨」ニシタモノ。〔例〕雨雲

(㊹)「羽」ヲ「羽」ニシタモノ。〔例〕羽翁習

之ニ類似シタ字形ニ「弱弱」ノヤウナモノガアル。

(㊺)「内」「丙」「全」等ノ「入」ヲ「人」ニシタモノ。

(㊻)「骨」「滑」「禍」「過」等ノ「冫」ヲ「冫」ニシタモノ。

(㊼)「令」ヲ「令」ニシタモノ。〔例〕令鈴領

(目)「亡」ヲ「亡」ニシタモノ。〔例〕亡忙忘望

(酉)「負」「象」マタハ「免」「絶」等ノ「夕」マタハ「刀」ヲ「夕」ニシタモノ。

「夕」「刀」ハ「没没」「頼頼」ノヤウニ之ヲ「ル」「ア」ニシタモノモアル。

(丑)「縁」「録」「縁」等ノ「夕」ヲ「ヨ」ニシタモノ。

(寅)「然」「燃」等ノ「夕」ヲ「夕」ニシタモノ。

(卯)「搖」「謠」「將」等ノ「夕」ヲ「夕」ニシタモノ。

○(辰)「争」ヲ「争」ニシタモノ。〔例〕争。淨。静。

(辰)「産」「顔」等ノ「产」ヲ「产」ニシタモノ。

(巳)「熱」「藝」等ノ「壺」ヲ「幸」ニシタモノ。

○(三)「御」「禦」等ノ「缶」ヲ「缶」ニシタモノ。

(三)「述」「術」等ノ「朮」ヲ「朮」ニシタモノ。

(目)「麻」ヲ「麻」ニシタモノ。〔例〕麻摩磨

(酉)「諭」「愉」「輸」等ノ「俞」ヲ「俞」ニシタモノ。

(丑)「吳」ヲ「吳」ニシタモノ。〔例〕娛誤

(寅)其ノ他ノモノ。又 刃 邦 邦 丸 丸 瓦 瓦 四 四 軌 軌 考 考 教 教 在 在

簡 簡 網 網 整 整 惠 惠 姬 姬

八 組立ヲ變へタモノ。

〔例〕默 默 點 點 護 護 勲 勲

九 小異ヲ統一シタモノ。

(一)「月」「月」「月」「月」「月」「月」ヲ「月」ニ併合シタモノ。

1 「月」「月」ヲ「月」ニ併合シタモノ。〔例〕朝勝服前愉

2 「月」「月」ヲ「月」ニ併合シタモノ。〔例〕肌肥肺肖育胃

3 「月」ヲ「月」ニ併合シタモノ。〔例〕青晴請

4 「月」ヲ「月」ニ併合シタモノ。〔例〕有賄

(二)「西」「西」ヲ「西」ニ併合シタモノ。

1 「西」ヲ「西」ニ併合シタモノ。〔例〕西煙

2 「西」ヲ「西」ニ併合シタモノ。〔例〕要覆

十 二体以上ノ一体マタハ二体ヲ採ツタモノ。

(一)二体以上ノ一体ヲ採ツタモノ。〔例〕群 群 羣 陰 陰 問 問 問 収 収 收

(二)二体以上ノ二体ヲ採ツタモノ。〔例〕島 嶋 島 嶋 恥 耻 恥 耻 算 筭 算 筭

十一、簡易ナ字体ヲ採ツタモノ。

- (一) 一部デ全部ヲ代表サセタモノ。〔例〕糸^絲 虫^蟲 声^聲 医^醫 条^條
 (二) 一部ヲ省イタモノ。〔例〕隨^隨 隱^隱 聽^聽 応^應
 (三) 別体ヲ採ツタモノ。

○ 1 「單」「品」「繰」等ノ「𠂔」ヲ「𠂔」ニシタモノ。

○ 2 「儉」「險」等ノ「僉」ヲ「𠂔」ニシタモノ。

○ 3 「從」「縱」等ノ「𠂔」ヲ「𠂔」ニシタモノ。

○ 4 「兒」「稻」等ノ「白」ヲ「𠂔」ニシタモノ。

○ 5 「瓶」「餅」等ノ「并」ヲ「并」ニシタモノ。

之ニ類似シタ字形ニ「刑」^刑「研」^研ノヤウナモノガアル。

○ 6 「徑」「輕」等ノ「𠂔」ヲ「𠂔」ニシタモノ。

○ 7 「擇」「釋」「驛」等ノ「𠂔」ヲ「尺」ニシタモノ。

○ 8 「錢」「殘」「賤」等ノ「𠂔」ヲ「𠂔」ニシタモノ。

○ 9 「數」「樓」等ノ「婁」ヲ「𠂔」ニシタモノ。

○ 10 「食(食ノ扁)」ヲ「食」ニシタモノ。〔例〕飢^飢 飲^飲

- 11 「郎」「廊」等ノ「良」ヲ「良」ニシタモノ。
- 12 「郎」「郷」マタハ「既」「節」等ノ「良」マタハ「良」ヲ「良」ニシタモノ。
- 13 「曷」ヲ「曷」ニシタモノ。〔例〕揭。渴。謁。
- 14 「濕」「顯」等ノ「焠」ヲ「显」ニシタモノ。
- 15 「勸」「觀」「權」等ノ「瞿」ヲ「雀」ニシタモノ。
- 16 「壯」「裝」「寢」等ノ「冫」ヲ「冫」ニシタモノ。
- 17 「勞」「舉」「覺」「留」「巢」等ノ「炊」「崩」「崩」「冫」ヲ「冫」ニシタモノ。
- 18 「惱」「腦」等ノ「囟」ヲ「凶」ニシタモノ。
- 19 「齒」ヲ「齒」ニシタモノ。〔例〕齒。齡。
- 20 「壞」「懷」等ノ「衰」ヲ「衰」ニシタモノ。
- 21 「兩」ヲ「兩」ニシタモノ。〔例〕兩。滿。
- 22 「參」ヲ「參」ニシタモノ。〔例〕參。慘。
- 23 「鹿」ヲ「康」ニシタモノ。〔例〕康。驟。
- 24 「齊」ヲ「齊」ニシタモノ。〔例〕濟。劑。
- 之ニ類似シタ字形ニ「齋」。齋ノヤウナモノガアル。

- 25 「壽」ヲ「寿」ニシタモノ。〔例〕壽。鑄。
- 26 「爲」ヲ「為」ニシタモノ。〔例〕為。偽。
- 27 「帶」ヲ「帶」ニシタモノ。〔例〕帶。滯。
- 28 「乘」ヲ「乘」ニシタモノ。〔例〕乘。刺。
- 29 「區」ヲ「区」ニシタモノ。〔例〕区。驅。歐。
- 30 「變」〔「蠻」〕「灣」等ノ「巒」ヲ「亦」ニシタモノ。
- 31 「賣」ヲ「売」ニシタモノ。〔例〕続。読。
- 32 「發」ヲ「発」ニシタモノ。〔例〕発。廢。
- 33 「繼」〔「斷」〕等ノ「繼」ヲ「迷」ニシタモノ。
- 34 「擔」〔「膽」〕等ノ「詹」ヲ「旦」ニシタモノ。
- 35 「龍」ヲ「竜」ニシタモノ。〔例〕竜。滝。
- 36 「萬」ヲ「万」ニシタモノ。〔例〕万。勵。
- 37 「佛」〔「拂」〕等ノ「弗」ヲ「ム」ニシタモノ。
- 38 「樂」ヲ「楽」ニシタモノ。〔例〕樂。藥。
- 39 其ノ他ノモノ。

所	控	惡
所	控	惡
圖	據	歸
圖	據	歸
圓	鐵	鬪
圓	鐵	鬪
壹	對	燒
壹	對	燒
實	燈	樣
實	燈	樣
黨	肅	疊
黨	肅	疊
氣	淵	撰
氣	淵	攝
靈	爐	儀
靈	爐	儀
寶	塩	解
寶	鹽	解
當	欠	未
當	缺	來
晝	豐	竊
晝	豐	竊
台	龜	証
臺	龜	證
	蚕	假
	蠶	假

常用漢字表中字典体ヲ採用スル文字

〔一 部〕 一 丁 七 丈 三 上 下 不 世 〔一 部〕 中 〔ノ 部〕 主 〔ノ 部〕 久 之 乏
 〔乙 部〕 乙 九 乞 也 〔丁 部〕 了 〔二 部〕 二 互 五 井 〔上 部〕 交 亦 亭
 〔人 部〕 人 仁 仇 介 仕 付 代 以 仰 仲 件 任 伊 伏 伐 休 伯 伸 伺 似 位 低 住 佐 何 作 佳 使 來 例
 侍 供 依 侵 促 俗 保 俠 信 俱 俳 俵 倉 個 倍 倒 借 倫 偉 停 健 側 偶 傍 傑 備 催 債 傷 傾 儻
 價 儀 億 儉 償 優 〔儿 部〕 元 兄 兆 兕 先 光 克 兒 〔入 部〕 入 〔八 部〕 八 公 六 共
 兵 其 具 典 〔冂 部〕 再 〔シ 部〕 凍 〔几 部〕 凡 〔凵 部〕 凶 出 〔刀 部〕
 刀 分 切 刊 列 初 利 到 制 刷 刻 則 剛 副 創 劇 劑 〔力 部〕 力 功 加 劣 助 努 動 勸 勞
 〔勹 部〕 包 〔匕 部〕 化 〔凵 部〕 區 〔十 部〕 十 千 升 午 卒 卓 協 南 〔卜 部〕
 占 〔尸 部〕 印 卯 〔尸 部〕 厘 厚 原 厥 〔厶 部〕 去 〔又 部〕 及 友 反 叔 取 受
 〔口 部〕 口 古 句 叫 召 可 史 右 司 各 合 吉 同 名 后 吏 吐 向 君 否 含 吸 吹 味 呼 命 和 咸 咽 哀
 品 哲 唯 唱 問 喪 單 嗣 嘉 嚴 〔口 部〕 囚 困 固 圍 園 圓 團 〔土 部〕 土 地 均 坊 坑 型 埋
 域 執 培 基 堀 堂 堅 堤 堪 塗 塵 境 壁 壇 壓 壤 〔士 部〕 士 壯 壹 壽 〔女 部〕 夏

【夕部】夕外多夜【大部】大太夫央失奇奉奏奪奮【女部】女奴好如妥妨

妹妻始姑姓委姦姪姻威娘娠娼婦媒嫁嬌孃【子部】子字存孝季孤【土部】

宅守安完宏宗官定客宣室宮宴家容寄密察寢實審寫【寸部】寸寺封射專尉尋對

【小部】小少【尤部】就【山部】山岸^x峽崇崎崩【《部】川州巢

【工部】工左巧【己部】己【巾部】市布帆希帝帥師帳帶常帽幅【干部】

千年幸幹【幺部】幻幼【广部】序底店府座庫庭庶康【彡部】廷建

【升部】弄【匕部】式【弓部】弓弔引弟張彈【彡部】形彰影【彳部】

彼徃征待律後徐徑徒得從御復微徵德【心部】心必忍志忠快念怒思怠性怨怪

怯恨恩息悖悟患悲悼惜惟想愁意愚愛慈慢慣慮慰慶慾憂憐憚憶懇應懲【戈部】

我戒戰戴【戶部】戶戾房所【手部】手才打扱扶批承技抑抗折披抵押抽拂

拓拘拙招拜括拾持振捕捧捨掃授掌排接推提揚換握揮損搜摘撫擇操據擬攝

【支部】支【攴部】攻放政故救敗敢敵數【文部】文【斗部】斗料

【斤部】斤斥斬斯新【方部】方施旅旋族旗【日部】日且旨早旬旭昇昌易

昔星映春昨昭是時晝普景晶智暇暗暴【日部】曲曹替最【月部】月朋朕期

【木部】木未末本札朱机朽杉材村束杯東板枕林枚果枝枯架柄染柔樞柱柳栗株

根格栽桃案桐桑梨械棄棒棟森棺楠業榮樂標樞樣樹檄檢櫻【欠部】欲欺歌歐

【止部】止正此步武歲【歹部】死殊殉殘【母部】母毒【比部】比

【毛部】毛【氏部】氏【气部】氣【水部】水汁求汗江池汰冲沙河沸油

治沼泉泊法波泣泥注泰泳洋洗津洪活派浦浪浸涉液淑淡混淺添測港湖湯源準溶

滅滋滯滴漁漂演漫漸澤激濁濃濟濱【火部】火炊炎烈無照煩熱燈營爆

【爪部】爪【父部】父【交部】爾【牛部】牛牧物牲特【犬部】犬犯

狀狂狩狹猛獄獨獸【玉部】王玩珠班現球理璽【甘部】甘甚【生部】生甥

【用部】用【田部】田由甲申男町界畑略番當【疋部】疋疎疑【疒部】

疲疾病^x症痘痛痢療癘【夭部】登【白部】白百的皆皇【皮部】皮

【皿部】皿盆盜盟監【目部】目相省眉看眠眼睡督【矢部】矢知短

【石部】石砂破硬硯碁碎磁礎【示部】社祈祖祝神票祭禁福禦【禾部】秀

私秋科秒租秩移稚種積穗【穴部】穴【立部】立章童端【竹部】竹竿笑笛

符第筆等筋筒管箱範篤籍【米部】米粉粒粗粘粹糞【糸部】約紅紋純紙級

紛素紡索紫累細紳紹紺組結絡給統經維綱綴綻綿緊線締編緯縮縱績織線

【缶部】缺【网部】罪罰罵羅【羊部】羊美義【老部】老【而部】耐

【耳部】 耳聞職 【聿部】 肇 【肉部】 肉腐 【臣部】 臣臥臨 【自部】 自
 【至部】 至 【白部】 興 【舌部】 舌舍 【舛部】 舞 【艮部】 良 【色部】
 色 【虎部】 虎虐 【虫部】 蚊蛇蛙蜂蜜 【血部】 血 【行部】 行街衝
 【衣部】 衣表衰袋袖被裁裂裏補裝裸製複 【見部】 見規視親覺 【言部】 言訂
 計討訓託訟訪許訴診詐詔詞試詩詰話詳誌認誓誕誘語課談論諮謀謝識譚讓
 【谷部】 谷 【豆部】 豆 【豕部】 豕豕 【貝部】 貝貞財貧貨販賈責貯貳貴
 買貸費質質貨賂賜賞賢賣賤賦質 【赤部】 赤 【走部】 走赴起超趣 【足部】
 足跡路踊 【身部】 身 【車部】 車軍軒軸載輕輦輪輿轉 【辛部】 辛
 【辰部】 辱農 【邑部】 邱郊郡部 【酉部】 酌酒酢酬醉醜 【采部】 釋
 【里部】 里重野量 【金部】 金針釣鈍鉛鉢銀銃銅銘鋒鋼錢錯鏡鑄鐘 【長部】
 長 【門部】 門閉開閉閣 【阜部】 防附降限陞院陣除陪陳陶陽隆階際障隣險
 【隹部】 隻雀雄集雌離 【非部】 非 【面部】 面 【音部】 音 【頁部】 頂
 項順預頽頽頭頽額顯顯 【風部】 風 【飛部】 飛翾 【食部】 食餐
 【首部】 首 【香部】 香 【馬部】 馬馳駁駐騎騷驗驛 【高部】 高 【鬼部】
 鬼 【魚部】 魚鮮鯉 【鳥部】 鳥鳩鳴 【鹿部】 鹿麗 【齊部】 齋

昭和十三年十一月一日印
昭和十三年十一月五日發
行

漢字字體整理案

非賣品

編輯兼發行者

石 黒 修

東京市世田谷區代田二ノ八四

印刷者

根 本 力 三

東京市牛込區市谷加賀町一ノ一二

東京市神田區西神田一丁目同盟會館內

發行所

國 語 協 會

電話神田(25)二〇〇一—二番
振替口座東京一六九四二番

刷印社會式株刷印本日大